

国産農産物の鉛、ヒ素及び水銀の含有実態調査 農水省



The Knights

農林水産省は平成 15・16 年度の国産農産物の鉛、ヒ素、水銀の含有実態調査の中間報告を平成 18 年 3 月 10 日までにとりまとめ、「日本人の大人1人が平均的に摂取している鉛、総ヒ素、総水銀の量が、専門機関が健康に影響を与えない量として定めた量より十分に小さい」との評価を公表しました。

鉛、ヒ素、水銀は、自然界にもともと存在していたものや、産業活動の結果、排出されたものが土壌や大気などの環境中に含まれているために、農産物からも検出される可能性があります。

今回の実態調査は 15 年度から開始されたもので、米、小麦、大豆、日本で消費量が多い野菜 20 品目、果実 8 品目を調査対象に、15 年～17 年の 3 年間で、米については約 600 点、小麦と大豆については各約 300 点、野菜や果実については各品目ごとに約 100 点の試料を採取して調査を行いました。

得られた分析値を基に算出した、鉛、総ヒ素、総水銀の品目別平均値は、鉛で 1kg あたり 0.01～0.04mg、総ヒ素で 1kg あたり 0.003～0.16mg、総水銀で 1kg あたり 0.0003～0.003mg でした。この数値から、さらに大人 1 人あたりの平均的な摂取量を試算すると、鉛では週体重 1kg あたり 1.9 μ g (15 年度) と 1.6 μ g (16 年度)、総ヒ素では週体重 1kg あたり 4.4 μ g、総水銀では週体重 1kg あたり 0.11 μ g となり、それぞれ、(1)JECFA(WHO/FAO 合同食品添加物専門家会議)が評価した鉛の暫定耐容一週間摂取量(25 μ g/kg 体重/週)の 1 割以下、(2)JECFA が評価した無機態ヒ素の暫定耐容一週間摂取量(15 μ g/kg 体重/週)の 3 割程度、(3)食品安全委員会が評価した妊婦を対象とするメチル水銀の耐容一週間摂取量(2.0 μ g/kg 体重/週)の 1 割以下、という結果が報告されました。

本調査は引き続き平成 17 年産の農産物の試料採取および分析が行われています。平成 15 年産～17 年産農産物の分析が終了した段階で、調査結果全体の取りまとめが行われる予定です。

当社では、今回分析対象になっている鉛、ヒ素、水銀だけでなく、食品中に含有する様々な金属の分析に対応可能です。ぜひ一度ご相談ください。

資料 2006 年 3 月 10 日付 農林水産省 HP

2006 年 3 月 10 日付 EIC ネット

機器分析箇所 有賀久枝